

インフォメーション

日本蜘蛛学会
第 48 回大会
(2016 年度)のご案内

日程：2016 年 8 月 20 日(土)・21 日(日)
[役員会を 19 日(金)午後に開催]

8 月 20 日(土) 9:30～

一般講演，シンポジウム，ポスター発表，
総会，懇親会

8 月 21 日(日) 9:15～

一般講演など

会場：東京大学柏キャンパス

<http://www.kashiwa.u-tokyo.ac.jp/tpp40.html>

問い合わせ先

〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1

東京大学農学部生物多様性科学研究室

谷川明男 dp7a-tnkw@j.asahi-net.or.jp

申し込み等の詳細は同封されている大会案内
をご参照ください。また，学会ホームページにも
案内や申込ページがあります。



同好会情報

ここでは日本各地にあるクモ同好会で発行されている定期刊行物の内容，採集会や講演会(総会・例会)の日程などを紹介する。興味を持たれた方は入会したり，行事に参加されてはいかがでしょうか。

三重クモ談話会(会長：橋本理市)

会報「しのびぐも」を年 1 回発行。採集会・合宿・例会などを年数回実施。

しのびぐも 43 号(作成中)

採集会

6 月 5 日(日) 伊賀市比土の里山

7 月 30 日(土)・31 日(日) 中部蜘蛛懇談会
との合同採集会 伊賀市比土，沖にて

9 月 4 日(日) 伊賀市比土の里山

10 月 16 日(日) 伊賀市比土の里山

2017 年 2 月 18 日(土) 総会・反省会・同
定会 松阪市日野町カリヨンプラザ

詳しくは会のホームページをご参照ください。
参加希望者は事務局(貝發)まで連絡してくだ
さい。

入会申し込み

〒515-0087 三重県松阪市萌木町7-4

貝發憲治 (事務局)

Tel (Fax) 0598-29-6427

mail : kumo@mctv.ne.jp

会費 年 2000 円

中部蜘蛛懇談会 (代表: 緒方清人)

会報「蜘蛛」を年1回, 「まどい」を年3回発行. 採集会を年2~4回. 総会・研究会を年1回実施.

蜘蛛 (KUMO) 48号 (2015年10月発行)

貝發憲治: 単眼の配列異常のクモ

塩崎哲哉: 不完全な外雌器を持ったウススジハエトリ雄の記録

塩崎哲哉: 九州・四国採蛛行

緒方清人: 愛知県日進市のクモ類

緒方清人: 愛知県豊橋市のクモ類

緒方清人: 愛知県名古屋市長区大高町のクモ類

緒方清人: 愛知県産クモ目録 追加種 (VII)

緒方清人: ムネグロサラグモの卵のうと雌の背面模様と色彩

緒方清人: 愛知県におけるトガリオニグモ成体の記録

杉山時雄: マメイタイセキグモの卵のう造りの観察

柴田良成: 越冬する蜘蛛-4

須賀瑛文: 中部蜘蛛懇談会小史 短報

益田和昌: 山梨県山梨市のヤスデ他

中根 翼: 森の宝石

総会・研究会・採集観察会等報告

採集観察会

6月25日(土) トヨタの森 フォレスタヒルズ P5 駐車場 午前10時集合 担当: 大原満枝・杉山時雄

7月30~31日 三重クモ談話会との合同合宿 伊賀市比土, 沖にて, 詳細は後日連絡. 担当: 貝發憲治

8月(未定) 子ども観察会 名古屋市内 担当: 筒井明子・柴田良成

9月(未定) 犬山市善師野 担当: 須賀瑛文

10月2日(日) 大高緑地公園 担当: 緒方清人

総会・研究会は2017年2月11日(金, 祝)

入会申し込み他

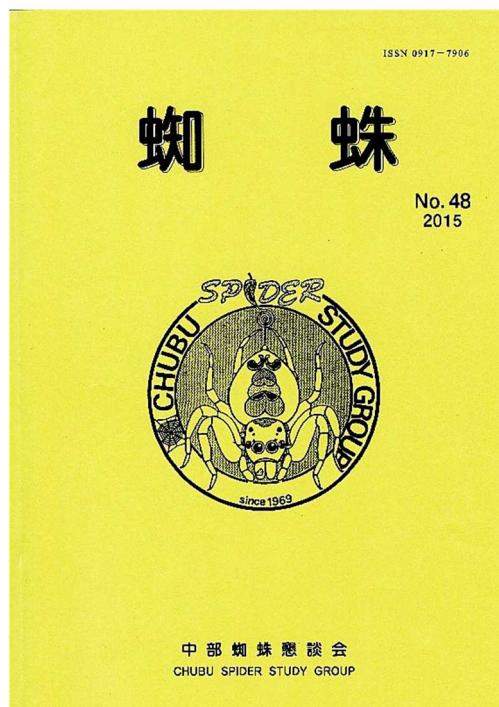
全般について

〒472-0022 知立市山屋敷町東山10-6

緒方清人 (代表)

Tel 0566-83-4474

E-mail: neon_kiyotoi@ybb.ne.jp



入会・会費など

〒451-0066 名古屋市西区児玉 1-8-24

柴田良成 (会計)

Tel 052-522-1920

会費

正会員 年 3000 円 (高校生以下 1000 円)

準会員 「まどい」のみ 1000 円

東京蜘蛛談話会 (会長: 新海栄一)

会報「KISHIDAIA」を年 2 回, 「談話会通信」

を年 3 回発行. 採集会年 4 回・合宿年 1 回・

総会例会などを年 2 回実施.

今年度の採集会は, 東京都町田市芹ヶ谷公園で
行います.

7 月 10 日 (日) 10 月 16 日 (日)

2017 年 2 月 19 日 (日)

小田急線町田駅西口の正面「特急券うりば」前
午前 10 時集合

世話人: 池田博明

連絡先: 池田携帯 090-9670-1525

合宿は 7 月 23 日 (土) から 25 日 (月) に
北海道支笏湖周辺で実施 世話人: 加藤輝代子
[すでに満員となりました]

例会は, 11 月下旬あるいは 12 月上旬の日曜
日 10 時より東京環境工科専門学校で実施.

KISHIDAIA 108 号 (2016 年 3 月発行)

奥村賢一: 東北湯けむり温泉ヤチグモ紀行

新海 明: 中平清先生遺稿「土佐のクモ」(2)

スズミグモのヨコ糸は足場糸かこしき糸か

長野宏紀・長谷川貴浩: クメジマイボブトグモ

の再発見及び巣の形態について

中山恒友・馬場友希・富山春香: 北関東におけ
るヘヤチリグモ・チリグモの記録

入江照雄: ヒゴユウレイグモの生息環境と分布

池田博明: アシナガグモの網作りについて

DRAG L I N E S

森田瑞樹・奥村賢一: 東京海洋大学におけるワ
スレナグモの分布

黒田あき: アシナガグモの交尾の観察

酒井春彦・池田博明: キカマキリモドキとイタ
チグモ

泉 宏子: リュウキュウヒメグモと卵囊

須黒達巳: ヨダンハエトリ白と黒

井上尚武: 茨城県からシマミヤグモとタカノハ
エトリを採集

萩野康則: 千葉県野田市の民家庭で採集された
ウスイロウラシマグモ

笹岡文雄: 富山県における地中性のクモ類とそ
の他のクモ

仲條竜太: 新島のクモ III

馬場友希・田中幸一: 奄美大島の水田で採集さ
れたクモ

馬場友希: 宮崎県・熊本県で採集されたクモ

馬場友希: 島根県で採集されたクモ

馬場友希・田中幸一: 長野県白馬村で採集され
たクモ

須黒達巳・吉武 啓: 北大東島, 南大東島, 石
垣島および西表島で採集したクモ

池田博明: 神奈川県足柄上郡大井町のクモ・続
報 2015 年おおい自然園生きもの調査[クモ]
から

入会申し込み

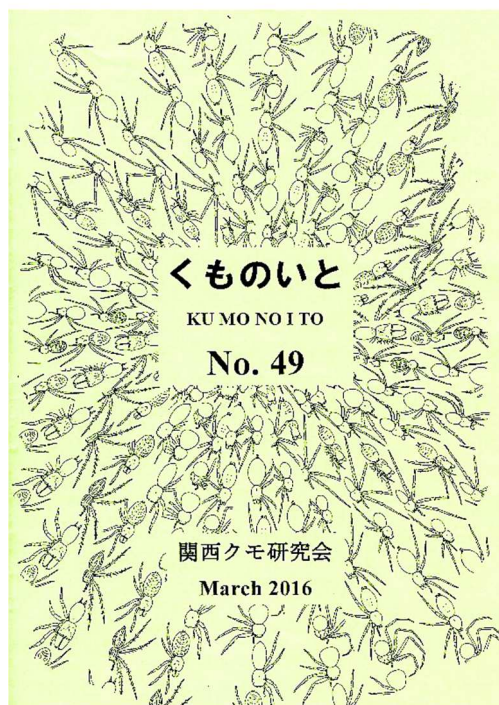
〒186-0002 東京都国立市東 3-10-8

コンフィデンス高垣 105 (有) エコシス
初芝伸吾 (事務局)
Tel 042-501-2651
E-mail:hatsushiba-ecosys@h8.dion.ne.jp
会費 年 2000 円 (学生 1000 円)
2015 年度より値下げしました。

関西クモ研究会 (会長: 田中穂積)
会報「くものいと」を年 2 回発行. 採集会・研究会例会などを年数回実施.

くものいと 49 号 (2016 年 3 月発行)
関根幹夫: 奈良県の御杖小学校で確認したクモ
上村友久: セアカゴケグモの変った観察事例
関根幹夫: 和歌山県有田川町で確認したクモ
関根幹夫: 奈良県内のトタテグモ類の新産地
補遺

吉田 真: 滋賀・京都のクモ類 (2010)
上村友久: クモの網にとまるカマキリ



上村友久: 網を分離させたジョロウグモ
桂孝次朗: 大阪都心の鞆公園「いのちの森」で
見つかったムツトゲイセキグモ
清水裕行: 京都市で採集されたカトウツケオグ
モ

採集会
伊丹市昆陽池公園で 3 回の採集会を予定.
5 月 22 日 (日) 10:00~15:00
8 月 6 日 (土) 18:00~21:00
10 月 2 日 (日) 10:00~15:00
伊丹市昆虫館玄関前集合 (雨天決行)

例会
12 月 18 日 (日) 13:00~
大阪市立自然史博物館で開催予定

入会申し込み
〒567-8502 茨木市西安威 2-1-15
追手門学院大学生物学研究室内
関西クモ研究会
Tel: 0726-41-9550 (加村研)
Fax: 0726-43-9432 (大学教務課)
会費 年 1000 円

東京クモゼミ
毎月 1 回, 第 1 土曜日に千葉県市川市の加藤
宅で開催. 会費などなく誰でも参加できる.
連絡先 新海 明 042-679-3728
または, 加藤輝代子 047-373-3344

関西クモゼミ
会費などなく誰でも参加できる.
連絡先 吉田 真 077-561-2660

メーリングリスト「クモネット」

会費などなく誰でも参加できる。入会の申し込みは e-mail で馬場友希まで。

ybaba@affrc.go.jp

言いたい!聞きたい!



クモ学セミナー 第4回 付着盤 について

池田博明

クモの糸の使い方を調べると必ず「付着盤」が登場します。付着盤はしおり糸を土台に止めている盤です。糸腺のうち梨状腺から出される糸によって作られ、英語では付着盤のことを Attachment Disc と呼びます。

この程度のことですが、付着盤について詳しく知ろうと思ったときに意外に資料が少ないようです。吉倉眞『クモの生物学』にもほとんど記述がありませんし、フェーリクスの『Biology of Spiders』も同様です。たいした機能もないようだから研究されていないの

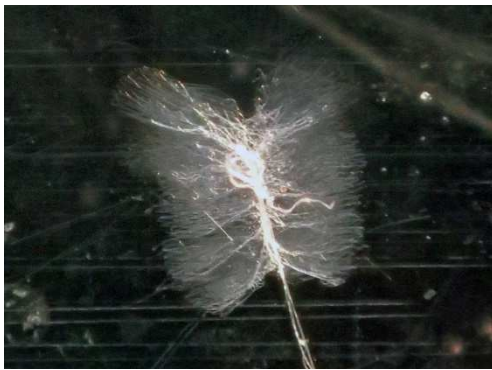


図1. ジョロウグモの付着盤 (山根一眞撮影)

ではないかと思っていました。しかし、それは誤解でした。

『小惑星探査機はやぶさの大冒険』等を書いたノンフィクション作家の山根一眞さんは知る人ぞ知るクモ好きです。その山根さんがジョロウグモがガラス容器の表面に作った付着盤の写真を送って下さいました(図1)。さらに、付着盤の研究論文をネットで探索して教えて下さいました。それらの数篇に目を通すと、バイオメティクスの観点から近年、付着盤が注目されていることが分かったのです。

付着盤とクモの生活

付着盤が使われる状況はどんなものでしょうか。場所を移動する際の登り降りやジャンプ、動作中に体を確保するのに付着盤が使われているほか、網や住居、卵囊などを固定する丈夫なアンカーとしても使われています。付着盤はクモの生活に頻繁にかつ広範に関係し、無くてはならないものでした。

付着盤の構造

付着盤はどのような構造なのでしょう。ドイツの Grawe et al. (2014)はレビューも兼ねた論文でしたので、これを中心に紹介してみます。

クモによる付着盤の形態の違いを研究したの

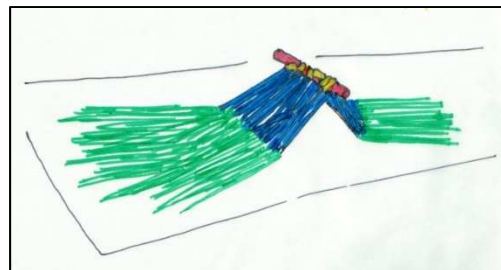


図2. 付着盤の基本構造 (Grawe ほか2014より改写)

は Schütt (1996) でした。彼女はコガネグモ科, サラグモ科, カヤシマグモ科, ハエトリグモ科, ユウレイグモ科のクモで, 系統と狩りのスタイルに依って付着盤の形態が異なると報じました。

Grawe et al. (2014)は, 付着盤の構造と接着力を比較するのに 5 種のクモと 3 種の土台を用いました。使われたクモはコガネグモの一種 *Argiope trifasciata*, セネガルジョロウグモ *Nephila senegalensis*, オオヒメグモ *Parasteatoda tepidariorum*, ブラジルドクシボグモ *Cupiennius salei*, シロアズチグモ *Thomisus onustus*。土台はガラス, 接着しにくいテフロン, エジプトイチジク葉 *Acer pseudoplatanus* の表面。彼らは顕微鏡・電顕像から付着盤の構造に関して基本の 4 つを提案しました (図 2)。土台に接着する baseplate

(基板: 緑色の構造), 基板と接合部をつなぐ bridge (橋: 青色の構造), dragline (しおり糸: 赤色の構造), しおり糸と橋をつなぐ conjunction (接合部: 黄色の構造) です。しおり糸は大瓶状腺の, それ以外は梨状腺の分泌物で作られます。付着盤の基板の形態がクモによりやや異なっていました, 基本的な構造は等しかったそうです。土台と接触する基板面積はオオヒメグモの $40 \mu\text{m}^2$ からブラジルドクシボグモの $1410 \mu\text{m}^2$ のまでかなりの幅がありました。この接触面積の違いは接着を引きはがす力に影響するだろうと予想されますが, その通りでした。例えばガラス面での引きはがし力 (pull-off force) はオオヒメグモは 2.9mN ですが, ブラジルドクシボグモは 35.1mN にもなります。

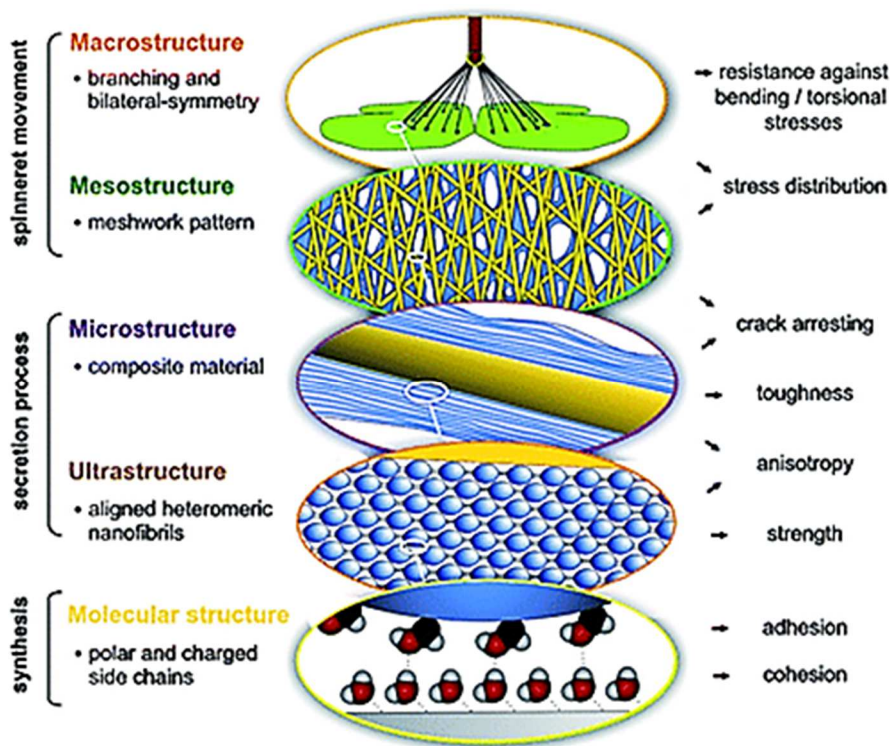


図 3 付着盤の階層的構成 (Wolff ほか 2015)

接着力と安全因子

引きはがし力を比べると、オオヒメグモの接着力はドクシボグモに劣るような印象がありますが、接触面積では35分の1でしかないオオヒメグモの引きはがし力はドクシボグモの12分の1ですから、接着力では決して負けてはいません。引きはがし力を接触面積で割った接着力 (attachment strength) はオオヒメグモ $7.8\text{N}/\text{cm}^2$ に対して、ドクシボグモ $2.2\text{N}/\text{cm}^2$ で逆転します。接着力はコガネグモの一種、セネガルジョロウグモ、ブラジルドクシボグモの間ではその差は有意ではありませんでした、シロアズチグモとオオヒメグモでは3倍にもなりました。これにはクモの体重が関係していそうです。

引き剥がし力を個体の体重で割って算出された安全因子 (the safety factor) を比べてみますと、クモのサイズが増加するにつれて減少していました (2.48 g のドクシボグモの安全因子は 1.4, 0.03 g のオオヒメグモの安全因子は 13.0)。安全因子が1以下になると、クモの体重を支えるには不十分だという理屈になります。

付着盤の接着力は小形のクモを支えるには過分なほど十分な力なのでした。

階層的構成による相乗効果

付着盤の接着力は梨状腺からの分泌物が作

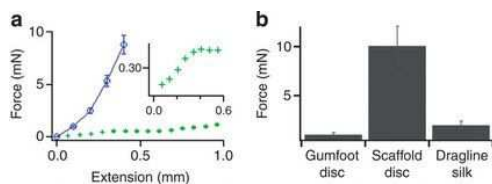


図 4. 足場ディスクとガムフットディスクの引っ張り強度と接着力の違い (Sahni ほか 2012)

る階層的構成による相乗効果です (Wolff et al., 2015). セネガルジョロウグモを用いて、土台に接着する基板を詳しく調べてみますと、梨状腺分泌物のスピドロインとコロイド状のセメントで出来ていました。スピドロインはタンパク質の糸ですが、セメント部分の成分もタンパク質と炭水化物で、構造はナノフィブリル (超微細繊維構造) でした。このナノフィブリルの基本粒子が未知の酸性タンパク質です。彼らはスライドガラス面の親水度を変化させる処理をして接着度を調べて、梨状腺糸の接着力に重要な働きをしているのは水素結合であると結論していました (図 3)。

オオヒメグモのガムフット

オオヒメグモのトラップ・スレッドとなるガムフット構造にも付着盤は重要な貢献をしていました。このガムフットを支えている付着盤は地表を徘徊している虫がかかると接着面から剥がれる構造です。しかし、不規則網を支えている支持糸のほうはそう簡単に切れては困ります。それでは、ガムフットの付着盤と支持糸の付着盤は異なるものなのでしょうか。

その疑問に回答を与えたのが, Sahni et al.(2012)でした。支持糸を支える付着盤を足場ディスク (scaffold disc)、ガムフットを支える付着盤をガムフットディスク (gumfoot disc) と区別して調べてみますと、ガムフットディスクは足場ディスクに比べてきわめて弱い接着力しかありませんでした。ちなみに、彼らはしおり糸の代わりにナイロン糸を付着盤で押さえさせて実験しています。

そしてこの接着力の違いは、いわゆる「基板」と「橋」が作る (2012 年の段階ではまだ baseplate や bridge という用語が提唱されて

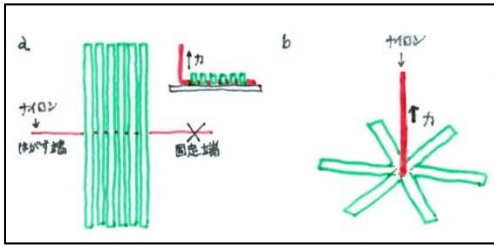


図 5. a はホチキス止め様式, b は樹枝状様式.
(Sahni ほか 2012 を改写)

いない) デザインの違いに関係していました。足場ディスクは「ホチキス止め」(staple-pin) 様式ですが、ガムフットディスクは「樹枝状」(dendritic) 様式なのです。ホチキス止め様式では基板の層を並べてしおり糸を押さえていましたが、樹枝状様式ではしおり糸に対して基板を放射状に配置していました。ホチキス止め様式では接着度は層数=梨状腺糸数、つまり「基板」の接触面積の広さに比例していました(図 5)。

モデル化された足場ディスクとガムフットディスク(図 5)は、ツヤクロゴケグモで研究された実際の構造とはやや異なっているようです(図 6)が、オオヒメグモは付着盤の基板デザインを用途に応じて使い分けることで、餌捕獲に効果的な網を構築していたのです。それにしても、ガムフットの基軸線は大瓶状腺の糸だとして、ガムフット粘球を作るのはどの糸腺なのでしょうか。

引用文献

- Blasingame. et al. 2009. Pyriform spidroin 1, a novel member of the silk gene family that anchors dragline silk fibers in attachment discs of the black widow spider, *Latrodectus hesperus*. *J. Biol. Chem.* 284, 29 097-29 108.
- Brely, L., F. Bosia, N. M. Pugno, 2015.

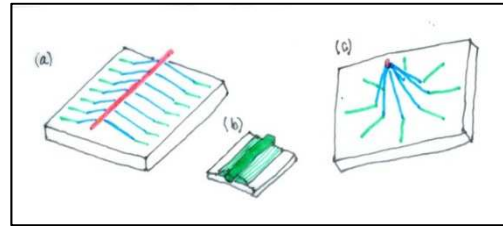


図 6 ツヤクロゴケグモでの a 足場糸ディスクのホチキス止め様式, b はスピドロイン糸がセメントに埋め込まれている様子, c はガムフットディスクの樹枝状様式 (Brely ほか 2015 より. 元は Blasingame et al. 2009. 原図は, 糸の色は赤色単色だったが池田が緑色・青色・赤色と色分けした)

- Numerical implementation of multiple peeling theory and its application to spider web anchorages. *Interface Focus*, 5(1). 20140051.
- Grawe, I, J. O. Wolff, S. N. Gorb, 2014. Composition and substrate-dependent strength of the silken attachment discs in spiders. *the Royal Soc. Interface*, 11, 1742-5662.
- Sahni, V., J. Harris, T. A. Blackledge and A. Dhinojwala. 2012. Cobweb-weaving spiders produce different attachment discs for locomotion and prey capture. *Nature Communications*, 3, 1106.
- Schütt, K. 1996. Wie Spinnen ihre Netze befestigen. *Mikrokosmos* 85, 274-278.
- Wolff, J. O., I. Grawe, M. Wirtha, A. Karstedta and S. N. Gorb, 2015. Spider's super-glue: thread anchors are composite adhesives with synergistic hierarchical organization. *Soft Matter*, 11, 2394-2403.

カトウツケオグモの 「卵のう」の発見

維摩節生

2015年の6月と7月に廿日市市で発見したカトウツケオグモ幼体♀2匹の飼育をしていたところ、成長して成体になったのち、9月28日と同30日に、同じアジサイの枝の葉裏に、糸で綴られた「白い隠れ家」が2個作られていました(図1~6)。個体の識別は、黒の個体(お腹が黒い)、黄の個体(お腹にマジックで黄色の印を付けた)としています。

Webサイトでもこのような「白い隠れ家」の存在は知っていましたが、「卵のう」である記述がありませんでしたので、気がつかずに単

なる「隠れ家」として観察をしていました。

2015年11月12日に、2015年9月30日に作られた「隠れ家」がもぬけの殻で、葉っぱもだいぶ萎れて来たので、中を覗いて見ました。すると、白く綴られた布のような、ベッドの真ん中辺りが黒っぽく、何かが入っているように見えました(図7~8)。

黄の「隠れ家」を広げて見ると、間違いなく「卵のう」です(図9~12)。太陽の光に透かして見ると中に、卵の粒が転って見えました。爪楊枝の先で、開いて見ると、1mm位の綺麗なオレンジ色の卵が転がり落ちて来て、「卵のう」と確認しました。卵の数は100個以上もありそうです。無精卵で残念です。



図1, 2. 黒の「隠れ家」。10月28日



図3, 4. 黄の「隠れ家」。10月29日



図 5. 黄, 10 月 30 日完成.



図 6. 黒と茶, 2匹の「隠れ家」.



図 7~8. 黄の卵のう. 大きさは 40mm 位



図 9~12. 卵のう内部の卵

クモ相撲の本

関根幹夫

自然の中から特定の虫を選び、二匹を闘わせる古くからの遊びに、闘蟋という中国のコオロギ相撲、タイ北部のメンクワンというヒメカブトムシを闘わせる遊び、そして、フィリピンと日本のクモ相撲がある。虫の行動の細部にまで綿密な観察眼を注ぎ、人々は勝つための工夫を凝らす。これらの遊びは、アジアと日本に共通する虫と人の関わり合いの文化の深さを象徴するものと言えるだろう。

斎藤慎一郎（2002）の「ものと人間の文化史 蜘蛛」（法政大学出版局）は、日本各地のクモにまつわる民俗とクモ相撲研究の集大成であり、参考文献（文献表）には、著編者の五十音順に 266 編が掲載され、クモの民俗・文化を考察する上で大変に貴重な資料となっている。

この文献表に載っていないクモ相撲の本を紹介しよう。

1) 宮武外骨 1985. 宮武外骨著作集第四巻 賭博史. 河出書房新社, p.673.

大正 12 年（1923 年）発行の宮武外骨「賭博史」の動物バクチの(五) 蟲合わせの項には、子供の遊戯としては甲蟲を闘はせたり、蜘蛛を闘はせたりする、賭博といふ程の事ではないが、時としては五文十文のカケをする地方もあるといふ。土佐では鬼蜘蛛といふのを捕へて闘はすさうである。又闘はすといふ程でなく、桶か大鉢などに水を入れて其上に一本の細い棒を架け、其棒の両端から蜘蛛を歩かせて、中央で出合った時、一方の蜘蛛を退かせて、先方へ渡ったのを勝とするなどの事もあるとある。斎藤

は、フィリピンや房総でクモの格闘技が賭博化したのは、退嬰現象であろうと述べているが（2004. クモの喧嘩遊びをめぐる民俗文化論. pp.337-354. In: 上田哲行（編）トンボと自然観. 京都大学学術出版会）、おとなが真剣になってやる遊びであるからクモ相撲もおそらく昔は博打の要素もあっただろう。高知県四万十市中村のクモ相撲では現在、水を張った木製の箱に取り付けた縦棒支柱に固定した横棒上で二匹のクモを闘わせている。かつて水を入れた入物の上でクモを闘わせる方法が考案されていたのは興味深い。

2) 坪内稔典 2011. 柿への旅 28 柿の島. 図書 8 月号. pp.41-43. 岩波書店.

俳人の坪内稔典は、柿についてのエッセイを岩波の「図書」に連載したが、壺井栄の小説「母のない子と子のない母と」（昭和 26 年）に、敗戦直後の小豆島の子どもたちの暮らしぶりが描かれていると紹介している。

もう一か所、「母のない子と子のない母と」から私にとってとてもなつかしい光景を引こう。

笹一のくれた女郎ぐものドンブスはまるまると太ってきて、名にふさわしく大きくなっていました。じぶんでかってに柿の木をはなれて、土蔵の軒にうつったのですが、八本の足を二本ずつ前うしろにひろげ、巢のまんなかに堂々とかまえている姿は、くもながらも、りっぱでした。蠅などを投げてやるたびに、金すじのある丸いお尻から、細い糸をじょうずにたぐり出して、まるめこみました。

一郎という少年が、誕生日のプレゼントとして友人の笹一から女郎ぐもをもらった。そのくもの名前がドンブスである。女郎ぐもはコガネグモとも呼び、黒地に金色の筋がある。私など

も庭先の柿の木でそれを飼育した。喧嘩をさせるためである。五十センチくらいの棒の上で二匹のコガネグモを出会わせると、強い方が糸で相手をくるんでしまう。これを俳句の季語では「くも合戦」とか「くも合わせ」という。鹿児島、高知県などでは土地の伝統行事として今なおこのくも合戦が行われているらしいが、愛媛県の佐田岬半島で育った少年時代の私などはそのくも合戦に夢中で、強そうなコガネグモを何匹も飼っていた。

稔典先生は、この小説の子どもたちと世代的に近く、暮らしぶりも似ていた、と書いておられる。

採集情報

日本各地で採集された稀産種や、都道府県初記録、島初記録、南限更新、北限更新など分布上の重要情報について掲載する。これを読み、「私もこんな種類を採集しているぞ」という方はその情報を是非お寄せいただきたい。

【このコーナーに掲載する記録は、証拠標本か、同定のキーとなる特徴がはっきりと撮影されている写真かのどちらかがあるものに限らせていただきます。目撃談のみのものにつきましては取り上げません。また、幼体の記録についてはいろいろと議論のあるところですが、とりあえず現段階では、参考記録として掲載を継続させていただきます。幼体での記録は誤同定の危険が大きいですので、可能な限り避けてください。】



オガタモリヒメグモ

オオサカアカムネグモ 茨城県つくば市
36°7'5.70"N 140°5'53.73"E, 2015年11月
15日 1♀1♂ 鈴木佑弥採集・同定

オガタモリヒメグモ 茨城県つくば市宝篋山
36°9'27.07"N 140°7'23.79"E 2016年2月
13日 1♀ 鈴木佑弥採集・同定

クマダハナグモ 茨城県つくば市宝篋山
36°9'36.05"N 140°7'14.06"E 2015年12
月12日 1y (飼育後♂成体, 2016年1月
10日) 鈴木佑弥採集・同定

オダカユウレイグモ 東京都調布市布田 小
野牧場厩舎 2016年1月8日 1y 渡部章
採集・池田博明同定

カタオカハエトリ 佐賀県小城市佐賀県果樹
試験場 2016年4月8日 1♂ 藤田将平
採集同定・馬場友希確認

キノボリトタテグモ 栃木県栃木市西方町本
城 2013年3月15日 写真のみで詳細不明
大森健治氏写真撮影・馬場友希確認

クメジマイボブトグモ 沖縄県島尻郡久米島



カガリビコモリグモ

町 2016年3月7日 1♂ 中野寛採集同定

カガリビコモリグモ 茨城県鹿嶋市平井海岸
36°3'48.46"N 140°37'12.19"E 2016年1月
2日 1♂ 岩田基晃採集・鈴木佑弥同定

チャクロワシグモ 静岡県浜松市天竜区水窪
町 35°9'33.09"N 137°52'3.67"E 2016年1
月2日 1y (飼育後♂成体 2016年1月31
日) 鈴木佑弥採集・同定

ヤマトオオイヤマケシグモ 静岡県浜松市天
竜区緑恵台 34°52'0.93"N 137°47'42.44"E
2016年3月15日 1♀ 鈴木佑弥採集・同
定

ノジマネオンハエトリ 三重県尾鷲市行野
標高 10.3m 1980年3月5日 2♀ 貝發
憲治採集・須黒達巳同定

トラフカノコハエトリ 三重県松坂市嬉野滝
之川町 標高 104.8m 2002年9月22日 1
♀ 貝發憲治採集・須黒達巳同定

マミクロハエトリ 三重県桑名市多度町多度
多度大社 横 標高 50m 1992年5月24日

1♀ 貝發憲治採集・須黒達巳同定

トサハエトリ 三重県志摩市志摩町布施田 標
高 3.3m 1980年7月20日 1♀ 貝發憲
治採集・須黒達巳同定

ヤガタアリグモ 三重県鈴鹿市岸岡町岸岡山
標高 29.3m 2005年4月24日 1♀ 貝發
憲治採集・須黒達巳同定

クモマハエトリ 三重県鳥羽市河内町 河内神
社 標高 22.9m 2008年4月26日 1♀ 貝
發憲治採集・須黒達巳同定

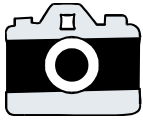
ネオンハエトリ 三重県熊野市紀和町湯の口
標高 95.8m 2013年7月7日 1♂ 貝發
憲治採集・須黒達巳同定

アサヒハエトリ 三重県津市美杉町八知 大洞
山野営場 標高 630m 1♀ 2009年6月14
日 貝發憲治採集・須黒達巳同定

コミナミツヤハエトリ 三重県津市美杉町下
之川 標高 320m 2015年8月11日 1♀,
三重県多気郡多気町朝柄 上出 標高 91.8m
1994年7月29日 1♀ 貝發憲治採集・須
黒達巳同定

サカグチトリノフンダマシ 東京都武蔵村山
市岸2丁目32番(都立野山北・六道山公園
「里山民家」施設付近 2015年7月7日 1
♀ (成幼不明) 町田満写真撮影・加藤輝代子
同定

(新海 明・谷川明男集約)



ギャラリー



ひつつきむしに擬態？

タイ南部トラン近郊の森で撮影したゲホウグモ属の一種です。腹部にたくさんの小突起をつけて、まるでオナモミの実のようです。ところで、オナモミは絶滅の危機に瀕しているようで、近畿地方や東京都ではすでに絶滅し、そのほかの地域でもほとんどが外来のオオオナモミなどに置き換わってしまっているということです。オナモミ自身も史前帰化と推定されているようですが、人間社会と同じように生物の世界でもグローバル化が進んでいるようですね。そのうち世界中が同じ生物相になってしまうのでしょうか。

撮影・コメント：谷川明男

遊絲原稿送付先

〒192-0352 八王子市大塚 274-29-603
新海 明まで

E-mail では dp7a-tnkw@j.asahi-net.or.jp
(谷川明男) まで

遊絲の発行は、年2回(5月、11月)の予定。投稿締切は発行月の前月末日(4月末と10月末)です。

日本蜘蛛学会

homepage : <http://www.arachnology.jp/>

Atypus 閲覧のパスワードは ---

入退会は

庶務幹事

中田兼介

〒605-8501 京都市東山区今熊野北日吉町

35 京都女子大学

E-mail: nakatake@kyoto-wu.ac.jp

会費の問い合わせ及び住所変更は

会計幹事

加藤輝代子

〒272-0827 千葉県市川市国府台 5-26-16-206

E-mail : kiyoko_kato@tce.ac.jp

年会費 正会員 7000 円 (学生は 5000 円)

郵便振替口座 00970-3-46745

日本蜘蛛学会

遊絲 第 38 号

2016 年 6 月 1 日発行

編集者 新海 明, 谷川明男, 池田博明

発行者 日本蜘蛛学会 会長 宮下 直
